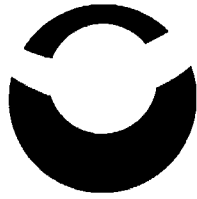


伊達市合併10周年記念

オン・ザ・ロード

ナレーター、シンガー、児童合唱、混声合唱、和楽器、吹奏楽のための
オラトリオ、もしくはシアターピース

台本 和合亮一 作曲 伊藤康英



On the Road an Oratorio or a Theatre Piece

Words by WAGO Ryoichi
Music by ITO Yasuhide

Full SCORE

IToMusic

on the road

路上で
旅行中で
地方を回って
途上にあって

ナレーター 和合亮一氏

シンガー ポップスの歌手。高い声の男声を想定しているが、低い声の女声でもよい。

児童合唱 小学校4年から中学生（一部高校生も可）。なるべく多数。拡声させる。

混声合唱 なるべく多数。拡声させる。

和楽器 締太鼓（複数） 檜太鼓（2） ささら（各種多数）

「うちばやし」を引用。それに伴い、しの笛等使用。

吹奏楽 標準編成

ピアノ シンガーと共に演奏するための電子ピアノ

演奏時間：約30分

オラトリオ「オン・ザ・ロード」

和合亮一 台本
伊藤康英 作曲

1

ぼくの道
きみの道
それぞれの
一歩と一歩
夜が明ける
手をつなごう
くちずさむ道
まちが見える丘
虹の足まで
空のふもとへ
一つずつ
光る道
手をつなぐ
道の途中で
きみと

振り向く
道の途中で
きみと
手をつなぐ
さあ
いこう

オン・ザ・ロード

2

光の子ども
これから
生まれる
僕ら
夜明けを待つて
伊達の路を
あるいています
ひかりのはだし
くものうたごえ
ほら 聞こえる
天地のしらべ
手をつなごう
緑の木の道
ぼくの道
きみの道
星のかなたに
雲のやさしさ
まっすぐに
歩く道
のみち
あぜみち
空のふもとに
誰かが
忘れたままの
白いボール
きみの手に
胸に 光を
投げよう
こだまが
返ってきた
いのちが

追いかけてくる
さあ
いこうか

オン・ザ・ロード

きみと
こうして
歌えば
小さな
あぜ道
大きな道に
なつてゆく
手をつなぐ
道の途中で
きみと
ほほえむ
道の途中で
きみと

★

このあたりは むかし 養蚕業が盛んだつた
伊達 保原 梁川 月館 霊山
人々は 大事に お蚕様を育てた
男は畑で 桑を育てて
女は 糸を紡いだ
さかんに 行商人たちが行きかい
出来た 蚕糸 織物は

伊達の道を通り

日本国中のみならず

世界中まで 広がっていった

3

広瀬川

水は

どこからやってくる

このあたりの蚕糸は
天下一だった
天から授かった糸を紡いで
暮らしを結んできた

今でも そうさ

伊達男 伊達女は

糸を 命を紡いでいる
糸を 心を繋いでいる

大人も 子どもも

手を結んで
生きています

紡ぐ

繋ぐ

結ぶ

歩く

空を

紡ぎ

山を

緑を

繋ぎ

町を

結ぶ

伊達路を

歩く

果てしない

空のふもとから

足跡をたてて

静かに

耳をすませば

鳥のさえずりが

せせらぎが

いのちの

しらべが

水と走り

風をおいかけ

光の子どもたち

はだしでおいかけ

セキレイは飛ぶ

道行く道よ

風が揺れる

子らの歌声

はるか伊達路

時は生まれて

光の子どもたちの

キヤッチボール

さあ いこう

光のボールの

転がる先へと

オン・ザ・ロード

4

僕らは子ども
伊達の子ども

僕らは子ども
地球の子ども

僕らは宇宙

僕らは銀河

僕らはひまわり

僕らは潮鳴り

僕らは虹

僕らは言葉

僕らは約束

僕らは飛行機雲

僕らは光

夜明けの光

僕らは真夏

僕らは麦わら帽子

僕らは入道雲

僕らは鉄塔

僕らはシオカラトンボ

僕らは旗

僕らは山車

僕らは提灯

僕らはお囃子

僕らは太鼓

僕らは花火

僕らはせみ時雨

僕らは田園

僕らは錦色の秋

僕は銀杏の木
僕は秋桜
僕は木枯らし
僕は厳しい冬
僕は雪の道

僕は新しい春
僕はエネルギー

渦巻く銀河
僕はロックンロール

夜明けの大地
夜明けの青空
夜明けの雲
追いかける
僕らの口笛

5

たかたかたかたかたかたかたかたかたかたかた
たかたかたかたかたかたかたかたかたかたかた

黒い馬
黒い手綱
黒い鞭
黒い鞍
黒い槍
黒い鎧
黒い兜
黒い背中
黒い髪
黒い刀を揺らし
黒い若武者が
一心に 駆けていく
まるで

このあたりの野山を
かけめぐっていた
狼の首領のよう
雄叫びあげて

たかたかたかたかたかたかたかたかたかたかた

我こそは
伊達の守り神
いざ伊達路へ

我が姿を見よ
伊達を守り
先を急ぐ
雄々しき姿を
天よ

地よ
我に味方せよ
勝機は

風向きの
一瞬にあり

人よ
時よ
宇宙よ
風とともに生きよ

季節とともに
命を躍らせよ
心をめぐらせよ

馬よ いななけ
ひづめの音を
聞かせてやれ

未明に
行方に

道ゆきに
さざしに

見よ

兜の額の
三日月を
光る命をみちびく
伊達の守り神なる
我が背のたてがみを
ひづめよ さざめ
いななけ 稲妻のごとし

見よ

鬼神のごとき
我が過ぎ去る影を
馬の背に乗せてきた
大いなる日輪を
光の誕生を

汝

夢を見よ

たかたかたかたかたかたかたかたかたかたかた
たかたかたかたかたかたかたかたかたかたかた

黒い馬
黒い手綱
黒い鞭
黒い鞍
黒い槍
黒い鎧
黒い兜
黒い背中
黒い髪
黒い刀を揺らし
黒い若武者が
一心に 駆けていく
汝
夢を見よ

そして
燃え上がるようにして
その夢を
生きよ

黒い武者に
守られし
伊達路

霊山の
山々から光

6

静かに

静かな朝焼け

静かな「静けさ」が 光に包まれていく

産声が 大きく 強く たくましい朝だ

この手に 生まれたばかりの

我が子を抱きとった たったいま

目をあけた きみよ

深い夜を歩き通した

子どもよ

一番最初の

きみの
夜明けだ

生まれてきてくれて
ありがとう

★★★

伊達市歌

1

ひかりのはだし
くものうたごえ
めぐる野原で
虹とささやき

風のふるさと
緑の息吹き

かがやく峰に
セキレイの翼(はね)

あしおと

あしあと

はるか青空

ともに道あり

伊達の
みらいへ

2

星ふるすあし
のみち あぜみち
空のふもとに
あかまつたずね

桃のふるさと
緑の木の实

ほほよせる季節(とき)
セキレイ光り

あしおと

あしあと

はるか夕焼け

伊達の
あしたへ

*

空も 雲も

谷も 鳥も

風も 町も

川も 山も

ふるさとも

たった一つ

一つ

はるか伊達路(じ)へ

道ゆく道へ

みらいへ

あしたへ